

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
 A:十分達成できている
 B:おおむね達成できている
 C:やや不十分である
 D:不十分である

学校名	佐賀県立鳥栖工業高等学校 全日制課程
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの五類感染症への移行に伴い、本校は教育活動を取り戻すことができた1年となった。しかし、コロナ禍以前の状態に完全に戻すのではなく、コロナ禍で得られた知見と経験を基に、さらに教育活動を発展させていくことを目指す。 志願者数の減少により、定員に達しない学科が出現した。中学生に対して、本校の魅力、実際の教育活動、そして就職・進学情報をより分かりやすく、丁寧に伝えることで、志願者の確保に努める。 教職員の働き方改革を継続し、出退勤管理システムを効果的に活用する一方で、労務管理システムにより、業務の効率化と時間外勤務の削減を図る。また、今年度も部活動の在り方を含め、健康的で活気のある職場環境の整備を進める。

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	広い視野と豊かな創造力を持ち、自ら学ぶ意欲と自らを律する力を備え、心身共にたくましく個性豊かで人間愛に満ちた、社会に貢献できる工業技術人の育成をします。
-------------------------	--

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標
1. 将来への目的意識(夢)が明確な生徒を求めます。 2. 基本的な生活習慣(挨拶、礼儀、服装等)が身に付いている生徒を求めます。 3. 工業分野への強い興味・関心を持っている生徒を求めます。 4. 向上心があり、物事に対し常に前向きに取り組める生徒を求めます。 5. 部活動等、中学校3年間で一生懸命に打ち込み、高校でも頑張り意欲がある生徒を求めます。	1. 将来への目的意識(夢)が明確な生徒を求めます。 2. 基本的な生活習慣(挨拶、礼儀、服装等)が身に付いている生徒を求めます。 3. 工業分野への強い興味・関心を持っている生徒を求めます。 4. 向上心があり、物事に対し常に前向きに取り組める生徒を求めます。 5. 部活動等、中学校3年間で一生懸命に打ち込み、高校でも頑張り意欲がある生徒を求めます。	1. 学ぶ楽しさ、わかる・できる・学んだことを活用できた喜びを実感できるように授業や実習の在り方の工夫・改善を図り、基礎学力の向上・定着に取り組めます。 2. 最先端の工業技術を学べるように各工業科の教育課程の改善・充実を図り、各工業科横断的な取組を積極的に取り組みます。 3. ICT機器を活用し、よりわかりやすい授業、学習効果が期待できる授業、自主性が見られる授業を展開し、質の高い教育に取り組めます。 4. 将来を視野に入れた目的・目標を持たせ、主体的に進路を選択・決定し、希望進路の実現、高校卒業後の人生設計につながるようなキャリア教育に取り組めます。 5. 個別最適な学び・協働的な学びの具現化、産官学の連携、高大接続に取り組めます。	1. 基本的な生活習慣の確立を図り、健全な人格を育成します。 2. ものづくりを通して、工業技術を習得させるとともに、創造力、問題解決能力、読解力を育成します。 3. 資格取得、技能検定、各種コンテストに参加することで、学習への興味・関心を高揚させ、得たにわたって、自己啓発ができる生徒を育成します。 4. 工業技術・スポーツ分野において、生徒の可能性・潜在能力を十分に引き出し、全国大会等で上位入賞ができる生徒を育成します。 5. 基本的な人権を尊重し、自らの言動に責任を持ち、人生を切り拓いていくために必要な人間力を育成します。	1. 基本的な生活習慣の確立 2. 基礎学力の向上 3. 資格取得・コンテストへの参加奨励 4. 部活動・学校行事の活性化 5. 朝読書の定着 6. ICT利活用教育の推進 7. 志を高める教育の推進

5 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		
●学力の向上	○授業の充実、指導方法の工夫・改善に関する取組	○生徒の授業に対する理解度 85%以上を目指す	・全職員が参加する相互授業参観を計画し、授業の充実、指導方法の工夫・改善につながる取組を各教科で行う ・1人1台端末の利用を推進し、生徒の理解がより深まる実践的指導を行う	A	・「どちらかといえば、はい」を含め生徒の86.2%以上が授業を理解していると考えている。後期の調査に、相互授業参観、職員研修や生徒による授業アンケート等を行い理解度の向上を図る。継続的に授業改善に努め、授業を十分理解していると答える生徒を増やしていきたい。	A	・最終的に87.2%の生徒が授業を理解していると回答したが、全員が理解できているわけではないため、一人ひとりの理解度・習熟度に応じた授業実践し、理解の向上に努めたい。相互授業参観等で授業の充実を図りたい。	A	・指導方法の工夫と改善を各教科、各科で行うことは良い手段だと思います。事例等を持ち寄り、共有することで生徒の苦手教科の克服に期待しています。
	○自らの将来に対する志を高め、希望進路の実現	○就職・進学希望を100%実現する ○進路指導に対する満足度 90%以上を目指す	・学習計画表を配布し、定期考査、模擬試験等に向けた家庭学習の定着を図る ・年間5回実施するキャリア・パスポートを基に、個々に合った進路情報の提供、進路指導の充実を図る	A	・進路・学習指導に対して「どちらかといえば、はい」を含め生徒93.0%、保護者93.9%が肯定的に答えている。3年生の就職・進学についても生徒97.1%、保護者99.4%が肯定的に答えている。年度末までに卒業生の進路を100%決定し、1、2年生の進路指導についても充実させていきたい。	A	・卒業生の就職については、求人数が昨年度を更新したこともあり、100%の就職率を達成した。進学についても、国立大学合格者4名を含め、ほぼ全員が進学先を決定できた。 ・1、2年生の進路指導についても、90%以上が肯定的に回答している。	A	・就職に関して、企業が必要としている人材傾向が変化しているように実感しています。現代にあった指導を取り入れていただきたい。特に、2年生の指導は重要だと思っておりますので、指導の深化が必要です。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権意識の向上が感じとれた生徒を90%以上にする	・人権・同和教育講演会を行う ・情報の授業、LHRにおいて、情報モラル教育、人権教育を行う ・すべての教育活動で人権に配慮した取組を行う	A	・人権意識の向上については、「感じられた」と答えた生徒がほぼ61.5%で、34.8%の生徒が「どちらかといえば、感じられた」と答えている。「感じられた」と答える生徒の割合をさらに増やすために、今後あらゆる機会を捉え、教育活動の充実化を図りたい。	A	・1、2年生は「個性といじめ」、3年生は「就職・雇用問題と人権」についてLHRで学習した。「向上が感じられた」と回答した生徒は93.6%であり、成果指標は達成している。しかし、卒業後は社会に出る生徒が多いため、本校での人権教育が最後となる。引き続き人権意識の向上に取り組んでいく。	A	・1年生と3年生では講義を受けた回数に違いがあるので、3年間を見通した意識向上をお願いしたい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○悩みを相談できる教職員がいるという生徒を85%以上にする	・いじめに関してのアンケートを年間に2回以上行う ・いじめ対応についての研修や啓発活動を年間に2回以上行う	A	・84.7%の生徒が、学校生活等における悩みを相談できる職員が本校内にいると答えている。今後も教職員からの積極的な声掛け等を行い、いじめ等の未然防止、早期発見と対応を教職員一丸となり取り組む。	A	・悩みを相談できる教職員がいると回答した生徒は88.5%であったが、「いいえ」と回答した生徒が6名いた。教育相談係が相談しやすい環境を整え、他の校務分掌・学年と連携を図ることができた。	A	・10%弱の生徒が先生に悩みを相談できていない。グループディスカッションを取り入れ、発言、行動、表情を通していろいろな悩みを共有できるようにすればいいのではないか。
●健康・体づくり	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動の推進	◎佐賀県に誇りや愛着を感じる。どちらかというと感じるという生徒80%以上を目指す ★郷土の人材を活用した講演会等、全学年対象に年間1回以上行う	・佐賀県内各地域に関わる郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した教育活動に取り組む ・全学年対象に年間1回以上、郷土の歴史や文化を学ぶ講演会を行う	B	・佐賀県への誇りや愛着を感じていないと答えている生徒が12.3%いるため、目標は達成しているが、食育に関する講演会や保健だより等で家庭での協力を更に得られるようにしていきたい。	A	・佐賀県への誇りを感じている生徒は75.6%で、成果指標を下回ったが、就職者のうち佐賀県内に内定した生徒は68%であり、県内の高校でトップクラスであった。	A	・この項目の数量化は難しいと思う。誇りや愛着は心の教育そのものと思われるので、引き続き指導をお願いしたい。
	◎「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	◎「健康に良い食事をしている」生徒を80%以上にする ○毎日、朝食をとる生徒80%以上を目指す	・生活状況調査、食に関する意識調査を行う ・全学年に食育に関する講演会を行う ・保健だよりを定期的に発行し、食に関する意識を高める	A	・健康と食事に対する生徒の関心は高く、84.0%が食事を大切と考えているが、朝食を毎日とっていない生徒が12.3%いるため、目標は達成しているが、食育に関する講演会や保健だより等で家庭での協力を更に得られるようにしていきたい。	A	・健康に良い食事を摂っている生徒は86.5%、毎日朝食を摂っている生徒は89.2%であった。目標は達成しているが、遠方から通学している生徒や寮生活の生徒の朝食状況が気になることである。これらの生徒の意識向上に努めたい。	A	・保健だより等を見たが、非常に役に立つ内容であった。本校は運動部を中心に多くの部活動が強化できているが、ここが原点だと思います。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在職等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・月曜日を定時退勤日とする ・学校閉庁日を設定する ・部活動休養日を設定する ・会議の精選や会議時間の短縮を図る	A	・87.5%の教職員が、勤務時間を意識した働き方を「実行できている」と答えている。今年度も、会議時間を短縮し、書面で済ませる機会を増やしていきたい。	A	・83.7%の教職員が勤務時間の上限を守れていると回答したが、産業医面接を受診した教職員もいた。 ・昨年度から「eMessage」の活用により、欠席・遅刻連絡、文書配信、アンケートが定着し、業務の時短化・効率化を図ることができた。また、会議についても、書面で済ませられるものは書面で実施できた。	A	・会議等で、定例的な項目や必要のない事は、書面も含めて削除していけば、会議の回数や時間は低減できると思います。また、休日にメンバハリをつけるような指導も必要だと思います。
	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上 ○支援が必要な生徒に十分対応できたと回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	A	・83.9%の教職員が、専門性が向上したと回答し、支援が必要な生徒に十分対応できた教職員も82.2%であった。別室登校や板書の支援にも対応できた。後期も継続して対応していきたい。	A	・85.7%の教職員が専門性の向上を実感していると回答した。別室登校や板書支援にも引き続き対応し、85.7%の教職員が適切に対応できたと回答した。	A	・支援を必要としている生徒への対応に今後ともご尽力いただきたい。また、対応できなかった事例の共有をお願いしたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★工業技術・スポーツ分野における全国大会等での上位入賞 ★県外からの入学志願者数の増加	★自分の学校を中学生に勧めることが出来る生徒の割合80%以上、教職員の割合90%以上を目指す ★全国大会等での上位入賞者数、5名以上を目指す ★県外からの入学志願者数、募集定員の10%以上を目指す	・工業技術・スポーツ分野において、生徒の可能性・潜在能力を十分に引き出す指導を適正かつ科学的に行う ・学校のホームページや学校紹介リーフレット等を活用し、情報発信を効果的に行う	A	・中学生に本校を勧めることができたと回答した生徒80.3%、保護者95.6%、教職員91.1%であった。概ね目標を超えているが、生徒の割合が高くないので改善を図っていく。 ・SAGA2024の開催年であったため、全国大会等での上位入賞者は目標を達成できた。県外からの入学志願者を増やすため、今後もPRを続けていく。	A	・本校を中学生に勧めることができたと回答したのは、生徒が80.7%、保護者が93.6%、教職員が95.9%であった。志願倍率は0.99であり、1倍を下回った。昨年よりよくなったが、本校の魅力や強みをさらに広く発信する必要がある。 ・レスリング部は全国高校総体で団体1位、駅伝部は全国高校駅伝で7位入賞、高校生ものづくりコンテスト旋盤部門全国大会では取組員を受賞するなど、目標を達成することができた。	A	・卒業した先輩たちの活動を「知る・学ぶ」ことで、伝統の重みを知ってもらうことが大切である。 ・生徒の目標、チームの目標達成に向けて、ご尽力いただきたい。 ・県外中学生への募集活動を積極的にお願いしたい。 ・PR、プレゼンを専門とする部署を設けることはできないか。
○工業技術の習得	○資格取得の奨励	○各生徒が1つ以上の資格を取得する	・各工業科において、資格取得を奨励し、その必要性と将来性を紹介するとともに補習体制を強化する	A	・資格取得や資格取得のための取組で、生徒95.6%、保護者92.1%、教職員94.6%が肯定的に評価している。	A	・生徒93.9%、保護者90.8%、教職員95.9%が本校を肯定的に評価した。就職を見据えた資格取得も進めることができた。	A	・資格取得者数には驚いております。しかし、働き方改革推進の課題もあり、補習の在り方を考える時期ではないかと思っております。

6 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 国民スポーツ大会への対応により、体育祭をはじめとする学校行事の日程が通常とは異なる変則的なものとなった。しかし、それに適応しながらも、全体としては以前の教育活動を完全に取り戻すことができた1年であった。特に、生徒にとって初めての国民スポーツ大会は、級友の素晴らしい活躍に大いに励まされ、応援を通じて団結力を深める機会ともなった。競技に参加した生徒はもちろんのこと、観戦した生徒にとっても貴重な経験となり、大会そのものが一生の思い出に残るものとなった。また、大会運営を支えたボランティア活動に参加した生徒も多く、地域貢献の意識を高める機会となった。 就職・進学に向けた対策として、企業講演や職場訪問、インターンシップを例年よりもさらに充実させ、実際の職場環境や仕事の流れを体験できる機会を多く提供した。その結果、卒業生全員が進路を決定することができ、希望する進路を実現するための支援が十分に行えたと思う。特に、就職希望者の66%が佐賀県内の企業に内定し、地元での就職を希望する保護者の期待に応えることができた。今後も県内企業との連携を強化し、より多くの生徒が安心して地元でのキャリアを築けるよう支援していきたい。 本校への志願者数は昨年度より増加したものの、依然として志願倍率は1倍を下回っている。この現状を改善するためには、本校の魅力や強みをより積極的に発信する必要がある。例えば、体験入学の充実や、在校生・卒業生の活躍を広く周知することで、中学生や保護者に本校の教育内容や学習環境の良さをより深く理解してもらうことが重要である。また、地域との連携を強化し、地元企業や自治体との協力のもとで特色ある教育プログラムを実施することも、志願者増加につながると考えられる。今後も引き続き、学校全体で魅力の発信に努めていきたい。
----------------	--